

平成 19 (2007) 年 2 月 3 日 (土) 10:00 ~

平成 18 年度 宇和島城保存整備事業

上り立ち門保存修理工事現地説明会

—上り立ち門(昭和 38 年 2 月 21 日市指定文化財)の価値再発見—

1. 上り立ち門の型式・構造について

(1)門の基本構造

- ・鏡柱(かがみばしら)・冠木(かぶき)
- ・控柱(ひかえばしら)・扉(とびら)

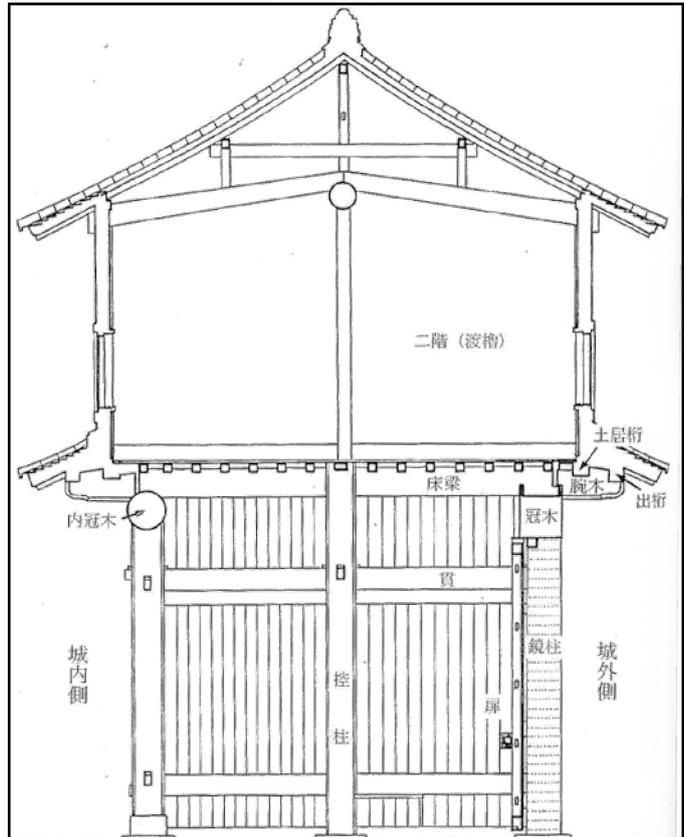
(2)上り立ち門の種類

薬医門：基本構造の鏡柱と控柱を、まとめて一つの切妻造り(きりづまづくり)の屋根で覆った城門。武家の邸宅の正面に本来は使われた格式の高い門で、防衛よりも格式を重んじる場所に建てられます。

(3)上り立ち門に見られる各部の特徴

- ・冠木：角材使用、横平⇒縦平への変化は慶長年間ごろ
- ・内冠木：丸太使用 ウリムキ⇒17世紀中ごろ八角形に変化
- ・鏡柱：断面長方形 木材は栂(つが)を使用。風食の度合いもかなり古めかしい。
- ・控柱：断面正方形
- ・貫板：2段
- ・屋根棟：中心を前方に出す。

⇒ 全て古式の様相を呈しています。



337 櫓門の断面図(名古屋城本丸表一の門)

櫓門は表側に本柱(鏡柱)を立て、角材の冠木を上に乗す。背面側には控柱を立て、丸太の内冠木を乗す。冠木と内冠木を台にして、その上に二階の床梁を架け、二階の檜は一階の柱より少し外に出して立てる。扉に雨がかからないようにし、また扉の前に出っ張った二階床下に石落を作って、扉を守るためである。

★軒丸瓦に九曜文が見られることから、伊達2代藩主宗利の改修時(寛文4年~寛文11年(1664~1671))のものと考えられていましたが、これらのことを考慮すると江戸初期頃に創建、寛文の改修には屋根だけ葺きかえられたものとも推測され、全国的にも希少な城門といえます。

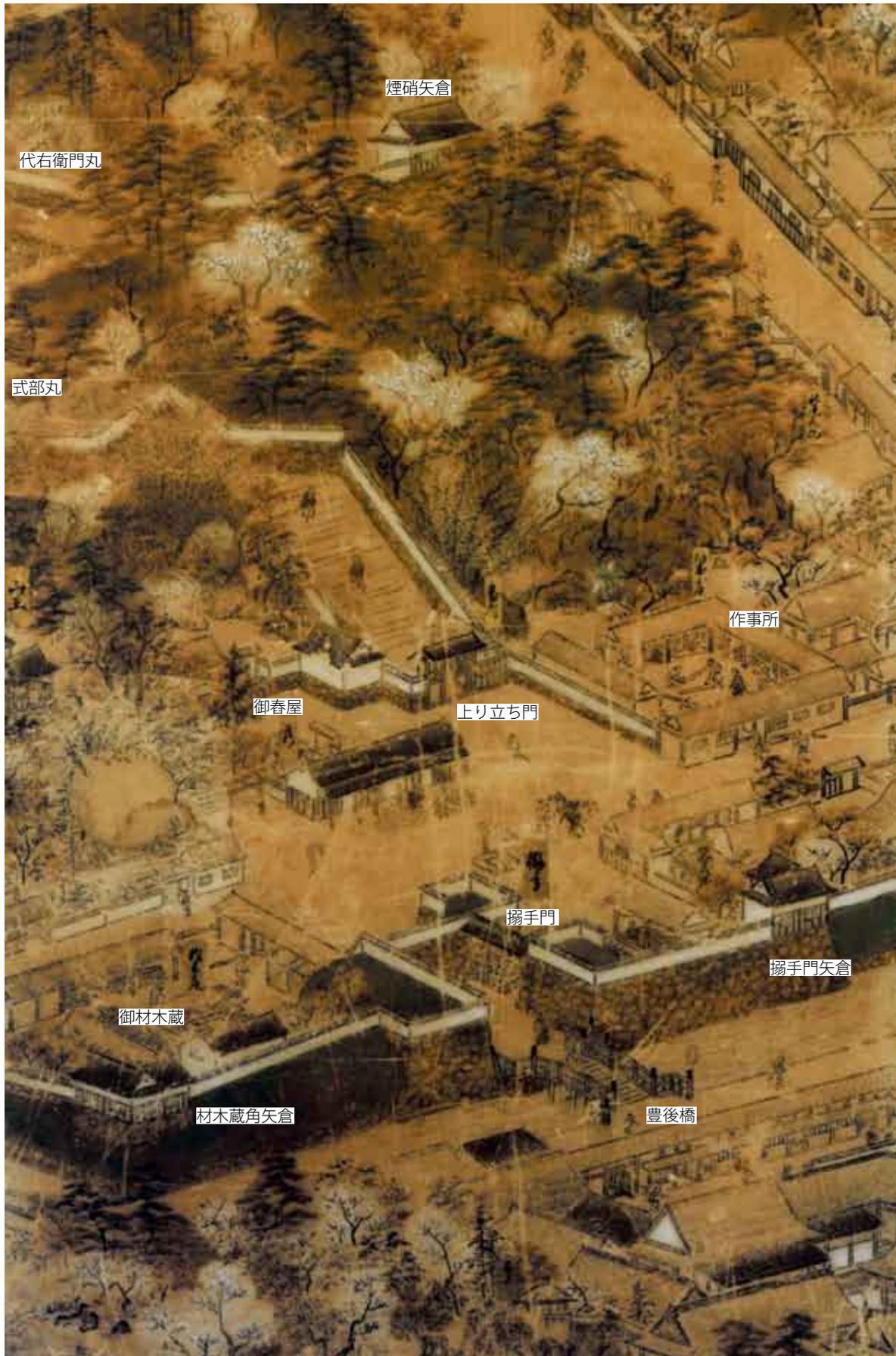
●上り立ち門の基礎データ

- 桁行(両端鏡柱間真々) 3.640m
- 梁間(鏡柱控柱間真々) 2.150m
- 高さ(鏡柱礎石天端より大棟まで) 5.400 m
- 軒の出 正面側(鏡柱真より茅負外角まで) 1.650 m
- 背面側(控柱真より茅負外角まで) 0.770 m
- 平面積(鏡柱・控柱内側面積) 7.826 m²
- 軒面積(茅負外下角内側面積) 23.627 m²
- 屋根面積(平葺面積) 30.160 m²

●参考文献・引用文献

- ・『城の鑑賞基礎知識』 三浦正幸 1999 至文堂
- ・『城のつくり方図典』 三浦正幸 2005 小学館

2. 江戸時代の上り立ち門周辺の様子について



宇和島城下絵図屏風（本丸部分）元禄6～8年（1693～95）推定
宇和島市立伊達博物館蔵

- ・平成 18 年 10 月 17 日～平成 19 年 3 月 9 日（予定）
昨年度解体を行った屋根や門扉の修理を行っています。業者は（株）南興建設で、工事費は 9,849,000 円です。
- ★上り立ち門の保存修理は足がけ 5 年、所要経費は約 1,800 万円程となっています。

(4)工事の内容

<平成 17 年度>

- ①仮設足場の設置
- ②東袖塀の解体
- ③屋根瓦の全面下ろし

瓦のかかりが少ないことが分かりました。2 枚しか重なっていませんでした。また葺かれていた軒瓦の文様は、軒平が三葉と橘、軒丸が九曜文のみでしたが、軒平・軒丸とも細部の意匠で数十種類に分類できそうです。

- ④野地板破損部の取替え
- ⑤扉取り外しと金具などの解体

昭和 58 年の工事の際に補強のために取り付けられたものもあることが分かりました。今回の修理では木材を交換することによりその補強材は採用せず、オリジナルに近い形に戻すことにしました。

- ⑥軸部の建て直し

根巻板をはずしたところ、昭和 58 年に修理した足元が腐朽していることが分かり、それが原因で軸部が傾倒していることがわかりました。腐朽部分は大きく取り外し、交換しました。

<平成 18 年度>

- ⑦金具の修理
- ⑧足元腐朽柱一部取替え
- ⑨補足瓦の作成

葺かれたいた軒瓦のなかで、もっとも古いものと思われるものを採用しました。菊間瓦を使用することになり、金型などを作成してもらい、精巧に復元しました。

- ⑩瓦の葺き直し
- ⑪両袖塀を復旧

東袖塀の控柱の根元は、以前倒壊した際、湿気と蟻害で腐朽していたため、今回は花崗岩製の石柱にしました。

- ⑫扉を取り付ける
- ⑬土壌防蟻処理と土間叩き

4. 今後の予定について

- ・交換した木材での科学的な調査⇒年代測定
- ・登城道の植生整理⇒植物調査の結果をもとに実施します。



瓦の下ろし作業



控柱の根元の腐朽



扉の解体①



扉の解体②



軒瓦の型
上(石膏)
左(金型)



東袖塀の倒壊状況

3. 保存修理工事について

(1)工事の目的

屋根瓦や門扉の破損、袖塀の倒壊があったことから、修理を行うこととなりました。

(2)過去の修理

昭和 57 年度（1982）に国の補助を受けて修理しています。

工事名：宇和島城上り立ち門補修工事

工事費：2,360,000 円

業者：村中建設

工期：昭和 58 年 1 月 27 日～3 月 31 日

内容：・屋根の全面葺替、破損瓦の取替・転び起し

・足元腐朽柱一部取替・両袖塀の改修

・雨樋除去と雨落溝の新設と排水路改修

・保存剤（キシラデコール）の塗布

⇒ 今回の工事とほぼ同じ内容でした。



(3)工事の経過

①平成 14 年 6 月 19 日

北側登城口の桑折長屋門とともに、前田宇和島市文化財保護審議会委員、建築住宅課職員とともに調査を行ない、専門業者へその調査を委託することとなりました。

②平成 15 年 10 月 20 日～平成 15 年 12 月 20 日

国宝及び重要文化財等の修理を数多く手掛け、宇和島城天守、天赦園潜淵館修理に実績のある財団法人文化財建造物保存技術協会（以後「文建協」）に調査依頼し、委託料は 819,000 円でした。（桑折長屋門の調査も含む）

③平成 17 年 2 月 1 日～平成 17 年 3 月 25 日

昨年度の調査を受けて、基本設計業務を文建協に委託、委託料は 787,500 円でした。

④平成 17 年 8 月 26 日～平成 18 年 3 月 31 日

基本設計書をもとに、実施設計書の作成と工事監理を文建協に委託し、委託料は 1,176,000 円でした。

⑤平成 18 年 3 月 17 日～平成 18 年 3 月 30 日

屋根などの解体工事を行いました。業者は(株)南興建設、工事費は 2,730,000 円でした

⑥平成 18 年 6 月 5 日～平成 19 年 3 月 23 日（予定）

昨年度に引き続き、工事の監理と報告書の作成業務を文建協に委託し、委託料は 2,772,000 円です。



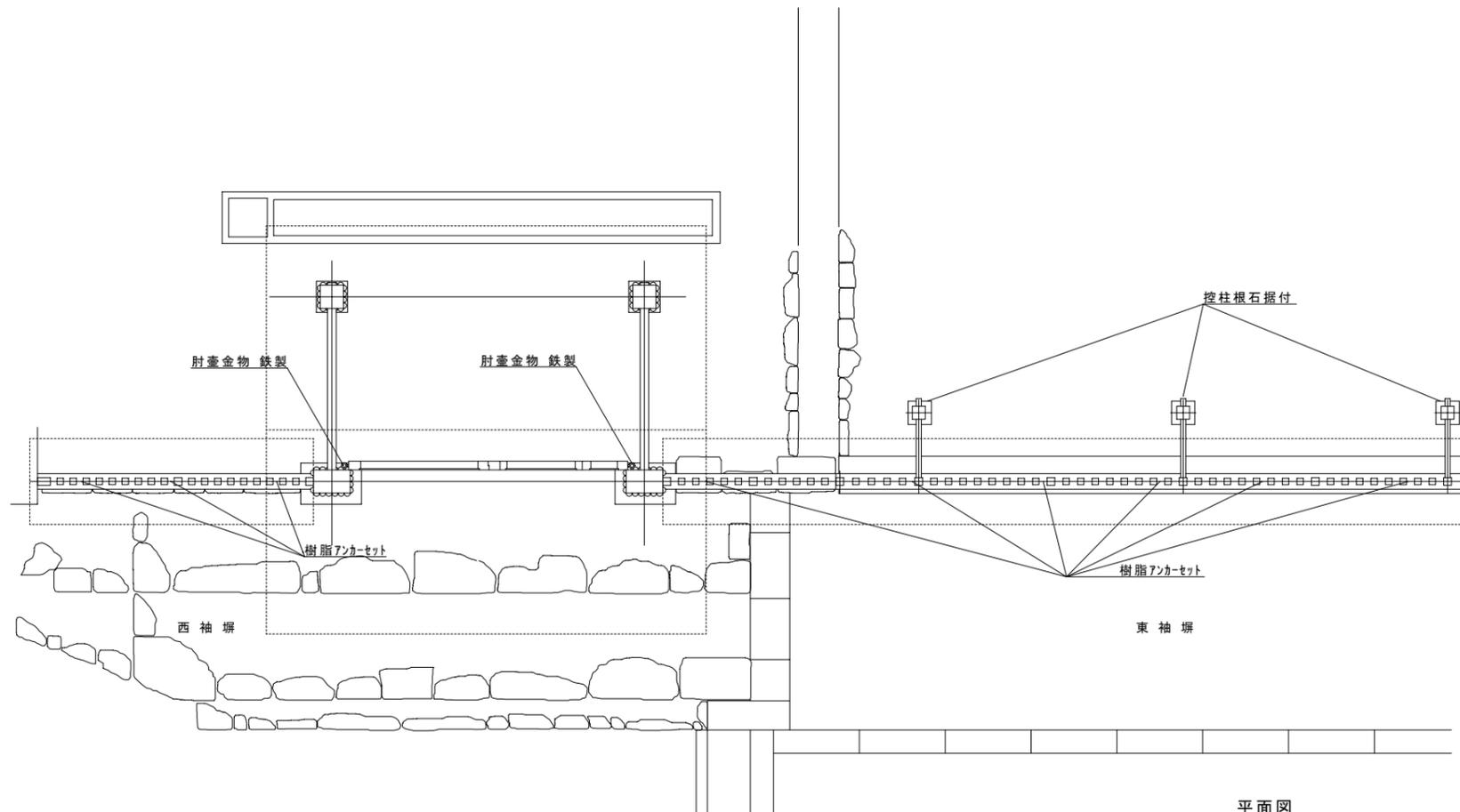
宇和島城絵図（上り立ち門周辺）正徳元年（1693～95）推定
財団法人宇和島伊達文化保存会蔵



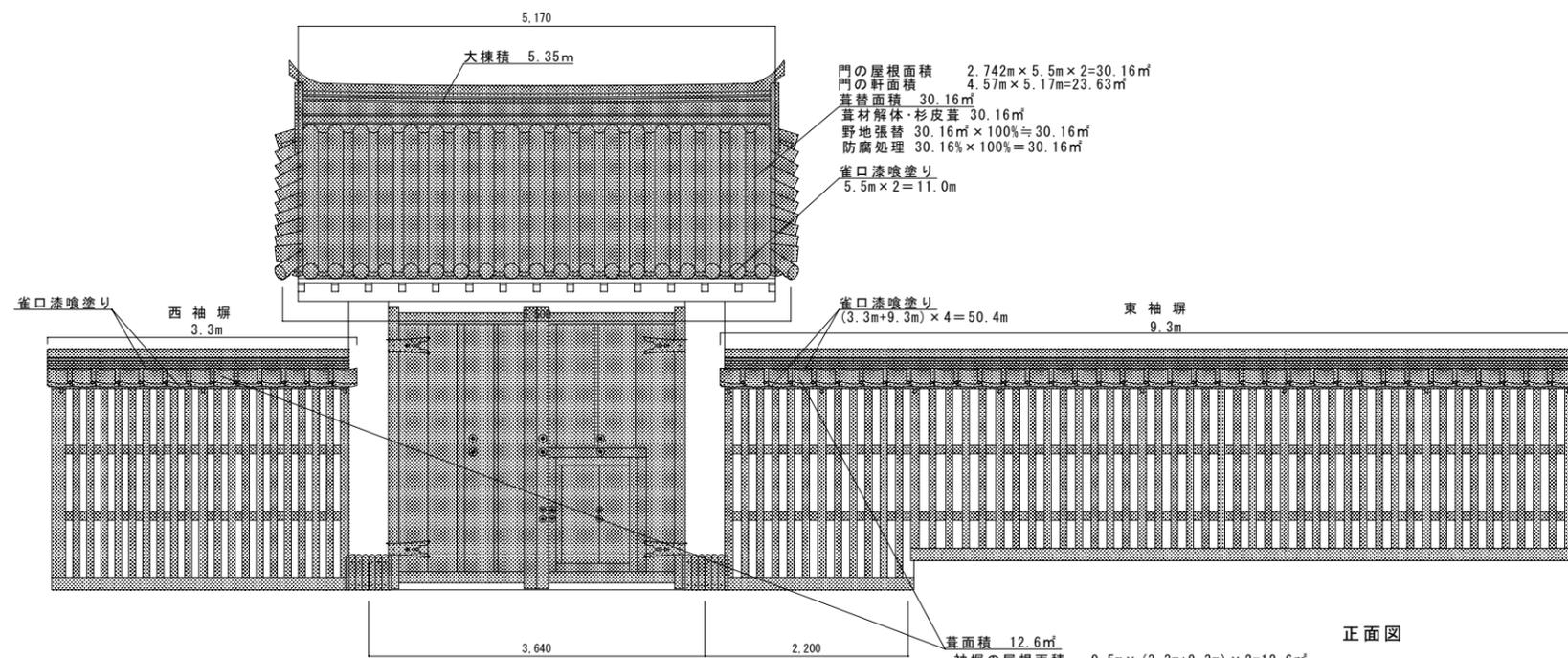
宇和島御城下絵図（元禄 16 (1703) 年）と現況平面図の比較検証図

※都市計画図（平成 7 年度経年変化修正）を使用。

※城山については 1000 分の 1 の平面図を合成。→ コンター 城山 1m、他 10m



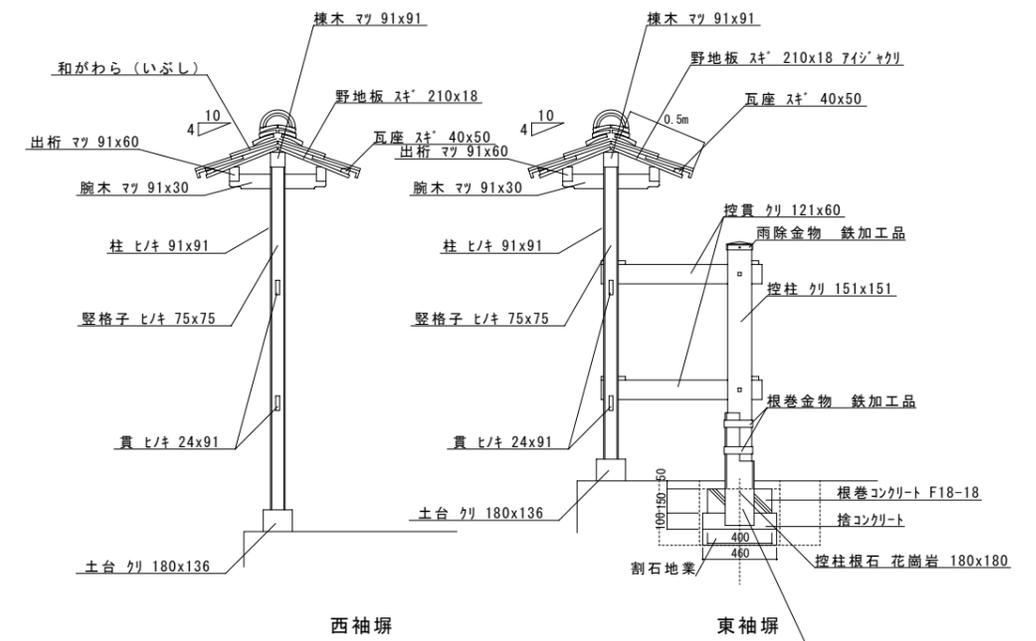
平面図



正面図

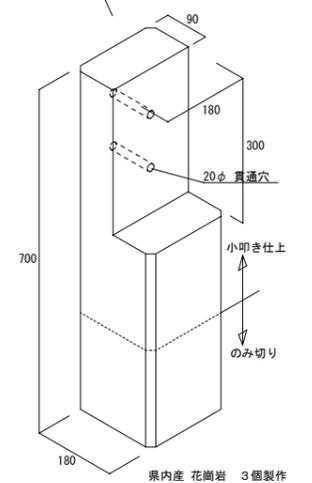
- 門の屋根面積 2.742m × 5.5m × 2 = 30.16㎡
- 門の軒面積 4.57m × 5.17m = 23.63㎡
- 葺替面積 30.16㎡
- 葺材解体・杉皮葺 30.16㎡
- 野地張替 30.16㎡ × 100% = 30.16㎡
- 防腐処理 30.16㎡ × 100% = 30.16㎡
- 雀口塗装塗り 5.5m × 2 = 11.0㎡
- 葺面積 12.6㎡
- 袖塀の屋根面積 0.5m × (3.3m + 9.3m) × 2 = 12.6㎡
- 西袖塀の屋根面積 0.5m × 3.3m × 2 = 3.3㎡
- 西袖塀の軒面積 0.857m × 3.3m = 2.828㎡
- 解体部分(西袖塀)軒面積 2.828㎡
- 軸部組立(塀の長さ) 3.3m + 9.3m = 12.6m
- 葺材解体(西袖塀) 3.3㎡
- 野地張替 12.6㎡ × 100% = 12.6㎡
- 杉皮葺 12.6㎡
- 防腐処理(野地) 12.6㎡
- 防腐処理(土台) (0.136m + 0.18m) × 2 × 12.6m = 7.96㎡
- 防腐処理(控柱) 0.151m × 0.451m × 3 = 0.20㎡

■ 修理範囲

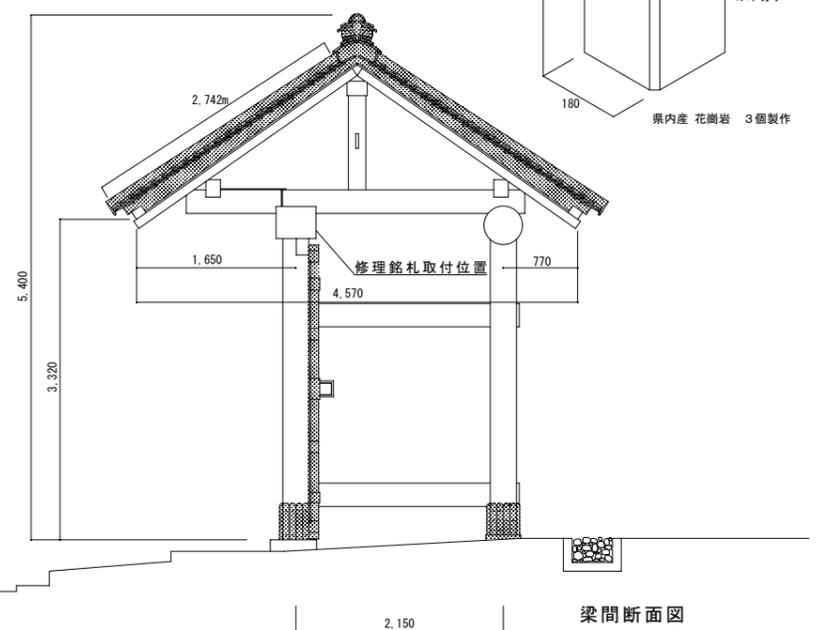


西袖塀

東袖塀



県内産 花崗岩 3個製作



梁間断面図